


サバティカル期間における研究経過・成果報告書

平成 30 年 11 月 20 日	
国立大学法人茨城大学長 殿	
所属・職名 人文社会科学部 教授 氏 名 小泉 由美子 	
下記のとおり、サバティカル期間が満了しましたので、研究経過・成果等を提出いたします。	
サバティカル制度を利用した期間	平成 30 年 4 月 1 日 ~平成 30 年 9 月 27 日

<p>①研究経過について (利用期間を月単位などに区分して、具体的な研究経過を記入して下さい。)</p>	<p>平成30年4月：米国ハーバード大学ホートン図書館、アマースト大学フロスト図書館等で19世紀米国東海岸におけるキリスト教関連資料の抄写・収集、自然神学と科学史の文献の解説、宗教と科学の密接な関連を解明。 平成30年5月：帰国後、茨城大学図書館、大学研究室にて、19世紀米国東海岸にて使用されていた宗教と科学の教科書の解説と当時の自然・風景論を美術史の観点からの分析、当時の自然・風景描写の歴史的変容を把握。 平成30年6月：自然神学を理解するために、米国17世紀から3世紀に渡る自然史の変遷と米文学における自然・風景表象の変容を理解した。 平成30年7月：科学の進歩が米文学に与えた影響、特にメタファー表現と思想においてディキンソンと代表的19世紀の文学者たちを比較・対照し、自然神学に対する態度の違いを検証した。 平成30年8月：EDIS年次大会に出席。ディキンソンの宗教メタファーを自然神学者の著作の中に発見し、彼女の家から見える景観と関連付ける。 平成30年9月：米国19世紀後半における風景詩学の変容を把握し、その歴史的文脈の中でF849の詩分析を論文にまとめた。</p>
<p>②研究成果について (目標の達成状況及び研究成果の公表予定について記入して下さい。)</p>	<p>エミリ・ディキンソンの宗教メタファー分析を行なうための基礎資料の収集と必要な文献抄写を、おおむね完了した。19世紀米国東海岸にて、宗教、科学、哲学のレンズが重なり合う点を通して世界を見ていたディキンソンの宗教メタファー分析の鍵は自然神学であることを解明、宗教メタファーを分析するためには、当時ディキンソンが読んでいたと目される宗教関連資料のみならず、科学史の資料読解が必須であると確信した。論文執筆が予定より遅れているが、順次研究成果を国際会議口頭発表および学術論文として発表していく予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. "The American Scenery through Dickinson's Window" 2019 2. 『完訳・エミリ・ディキンソン詩集』分担訳 金星堂 2019 3. "Nature, Theology, and the Metaphors that Bind" EDIS 2019 4. 「ディキンソンの風景詩学」『私の好きなエミリ・ディキンソンの詩Ⅱ』金星堂 2020 5. "Evidences of Christianity: Natural Facts in Dickinson's Religious Poems" 2020 6. "Natural Theology and Dickinson's Response to Hitchcock's Formulation of Sciences" 2020 7. "Dickinson's Religious Metaphors" 2020